

**学校法人 佑愛学園
愛知医療学院大学**

2024年度 授業評価レポート



2025/7/31

目次

■ 資料

- 1 学生による授業評価実施要項 … 3
- 2 学生による授業評価アンケートの実施要領 … 4

■ 授業評価レポート

【教養基礎科目】

- 1 生命の科学 … 8
- 2 エネルギーのしくみ … 9
- 3 情報科学 … 10
- 6 心理学基礎 … 11
- 7 人間関係論 … 12
- 8 倫理学 … 13
- 10 教育心理学 … 14
- 11 英語Ⅰ … 15
- 12 英語Ⅱ … 16
- 15 レクリエーション … 17
- 16 生物と環境 … 18
- 17 現代社会の理解 … 19
- 20 法学入門 … 20
- 21 社会福祉学 … 21
- 22 スタートアップセミナー … 22
- 23 医療職教養演習(PT) … 23
- 24 医療職教養演習(OT) … 24

【専門支持科目】

- 25 解剖学Ⅰ … 25
- 26 解剖学Ⅱ … 26
- 27 解剖学実習 … 27
- 28 生理学Ⅰ … 28
- 29 生理学Ⅱ … 29
- 31 運動学総論 … 30
- 36 人間発達学 … 31
- 37 病理学 … 32
- 45 リハビリテーション医学 … 33
- 46 医療安全学 … 34
- 49 リハビリテーション概論 … 35

【専門基幹科目】

- 52 理学療法概論 … 36
- 55 人体触察法実習 … 37
- 85 臨床実習Ⅰ(見学) … 38
- 90 臨床セミナー … 39
- 93 作業療法概論 … 40
- 95 基礎作業学 … 41
- 96 基礎作業学実習 … 42
- 115 日常生活作業学Ⅰ … 43
- 126 臨床実習Ⅰ(見学) … 44
- 131 臨床セミナー … 45

2024 年度 学生による授業評価実施要項

1. 実施目的

学生による授業評価アンケートは、教育運営委員会規程に基づいて行われ、アンケート結果を参考に授業の改善を図り、本学教育の質の一層の向上に資することを目的とする。

また、学生自身が授業への取り組みや学修行動を振り返り、確実に学修成果を修めることを目的とする。

2. 実施方法

2024 年度開講科目を対象として、授業毎にアンケートを実施する。

学生は、履修した科目のアンケートを Web アンケート方式（infoClipper Web ポータル）で回答する。

3. アンケート内容

I 授業の内容について	2 問
II 授業の方法について	3 問
III 授業担当教員について	2 問
IV あなたの受講態度について	3 問
V あなたの学習態度について	1 問
VI この授業についてのあなたの満足度	1 問
VII ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の把握	1 問
VIII 総合評価	2 問

4. 所要時間

5 分程度

5. 調査結果の集計

調査結果の集計は、IR・情報課が行う。

6. 調査結果の配布

実施した専任教員および非常勤講師には、集計結果ならびに設問別の平均値や回答割合を添えて配布する。

7. 実施結果の公表

個人集計結果を除き、全学集計結果を本学ホームページにて公開する。

2024 年度
愛知医療学院大学
教育運営委員会

学生の皆さんへ

「学生による授業評価アンケート」への協力のお願い

愛知医療学院大学
教育運営委員会

本学では「授業の質」を高めること、皆さん自身の学修行動を振り返り、確実に学修成果を修めることを目的として、授業科目毎に「学生による授業評価アンケート」を実施しています。このアンケートが皆さんの成績評価に影響を与えることはありませんので、安心して率直に回答してください。

皆さんの建設的な意見によって、本学の授業がより良いものになります。真剣に回答頂きますよう、ご協力をお願いいたします。

<実施科目>

全科目・全クラス

※但し、科目の性質上、アンケートの設問を一部除外して実施する授業科目もある。

<実施時期>

原則として、各科目1回、授業最終日に実施します。

<実施方法>

履修した科目について、Web アンケート（infoClipper Web ポータル）方式で回答します。

※オムニバス形式の授業の場合、全体で一つの授業科目としてアンケートを実施します。

（オムニバス形式の授業のアンケートは、担当教員別には実施しません。）

<所要時間>

5分程度

〈授業評価アンケート〉

I 授業の内容について

1. 授業の内容は、あなたにとって、興味深いものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
2. 授業の内容は、あなたにとって、理解しやすいものでしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない

II 授業の方法について

3. 授業の進み具合は適切でしたか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
4. 授業中、教員の説明は、明瞭で聞き取りやすいものでしたか
※オンライン授業の場合、パソコン・スマートフォン・Web 環境の不具合によるものは除く
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
5. 授業内容の理解を促進する工夫がされていましたが（教科書や講義資料の適切な提示や ICT の効果的な使用など）
※ICT の使用とは、プロジェクターによるパワーポイントや動画の提示、コンピュータ機器の使用、デジタル教材、電子媒体でのレポート提出等を指します
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない

III 授業担当教員について

6. 教員は学生の理解を深めるための工夫（小テスト、課題、グループワークなど）を十分にしていたと思いますか
①そう思う ②どちらかといえばそう思う ③あまりそう思わない ④そうは思わない
7. 教員はシラバスに記載の学習到達目標や成績評価について授業内で説明していましたか
①説明していた ②説明していなかった ③説明していたかどうか分からない

IV あなたの受講態度について

8. この授業に対してあなたは遅刻、私語、居眠りをせず、意欲的に参加しましたか
①意欲的に参加した ②どちらかといえば意欲的に参加した
③あまり意欲的に参加しなかった ④意欲的に参加しなかった
9. 理解できない点などを質問しましたか（複数選択可）
①授業中に授業担当者に質問した
②オフィスアワー等の授業外の時間を活用して授業担当者に質問した
③Google フォーム等の振り返りシートを活用して授業担当者に質問した
④十分理解できたため質問していない ⑤ほかの学生に質問した（学生間の情報共有）
⑥授業担当者に質問していない
10. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③あまり取り組まなかった
④取り組まなかった

Vあなたの学習態度について

11. この授業1コマにつき、事前事後学習（授業外の学習（予習・復習・課題））としてどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）

※事前事後学習とは、授業担当教員から提示される課題も含まれます

- ①全くなし ②1時間未満 ③1－2時間 ④2－3時間 ⑤3－4時間 ⑥4時間以上

VIこの授業についてのあなたの満足度

12. この授業を受けて、知識修得（実習科目は技術習得も含む）に満足していますか

- ①満足している ②どちらかといえば満足している ③あまり満足していない
④満足していない

VIIディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の達成度

13. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく学習到達目標を達成することができましたか

- ①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③あまり達成できなかった ④達成できなかった
⑤ディプロマポリシーや学習到達目標がわからない

VIII総合評価

14. この授業を4段階で総合的に評価してください

- ①良い ②どちらかといえば良い ③どちらかといえば悪い ④悪い

15. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

〈授業評価アンケート〉※設問除外パターン

Ⅳあなたの受講態度について

1. この授業に対してあなたは遅刻、私語、居眠りをせず、意欲的に参加しましたか
①意欲的に参加した ②どちらかといえば意欲的に参加した
③あまり意欲的に参加しなかった ④意欲的に参加しなかった
2. 理解できない点などを質問しましたか（複数選択可）
①授業中に授業担当者に質問した
②オフィスアワー等の授業外の時間を活用して授業担当者に質問した
③Google フォーム等の振り返りシートを活用して授業担当者に質問した
④十分理解できたため質問していない ⑤ほかの学生に質問した（学生間の情報共有）
⑥授業担当者に質問していない
3. シラバスに記載されている「学習到達目標」や「履修上の注意」を意識して学習に取り組みましたか
①取り組んだ ②どちらかといえば取り組んだ ③あまり取り組まなかった
④取り組まなかった

Ⅴあなたの学習態度について

4. この授業 1 コマにつき、事前事後学習（授業外の学習（予習・復習・課題））としてどのくらいの時間をとりましたか（平均して算出してください）
※事前事後学習とは、授業担当教員から提示される課題も含まれます
①全くなし ②1 時間未満 ③1－2 時間 ④2－3 時間 ⑤3－4 時間 ⑥4 時間以上

Ⅵこの授業についてのあなたの満足度

5. この授業を受けて、知識修得（実習科目は技術習得も含む）に満足していますか
①満足している ②どちらかといえば満足している ③あまり満足していない
④満足していない

Ⅶディプロマポリシー（卒業認定・学位授与に関する方針）の達成度

6. この授業を受けて、ディプロマポリシーに基づく学習到達目標を達成することができましたか
①達成することができた ②どちらかといえば達成することができた
③あまり達成できなかった ④達成できなかった
⑤ディプロマポリシーや学習到達目標がわからない

Ⅷ総合評価

7. この授業を 4 段階で総合的に評価してください
①良い ②どちらかといえば良い ③どちらかといえば悪い ④悪い
8. この授業の良かった点や改善すべき点などを自由に書いてください

科目名	1.生命の科学
-----	---------

担当教員	森谷 和司
------	-------

専攻・配当年次	PT・OT	1年	回答者数	72 名
---------	-------	----	------	------

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

生命について科学的に考えられるよう、自作プリントと映像教材を使って授業を進めた。総合評価は3.81で、昨年度とほぼ同様の評価であった。しかし、学習態度に関する内容で、事前事後学習時間は少なく、取り組みやすい課題や、説明の必要性を感じた。

講義内で、生きている生物や標本などを持参したことについて、「普段触れられない様々な生き物に出会えてとても楽しかった」という記述があった。また、授業の最後に課題を課したが、「課題があるのが理解するために役立った」という記述があった。生命に関する関心・理解を助けることは続けていきたい。

◆今後に向けて

生物学は日々発展しており、遺伝子診断やiPS細胞などは医療にも導入されつつある。このような中で、専門科目との関連性も考慮したうえで、講義で取り扱う内容も検討を重ねていく必要があると思われる。特に「遺伝子」や「発生・再生医療」に関する分野はニュースや新聞記事を含め積極的に取り入れていきたい。

生物学は暗記になりやすいが、学生にもう少し深く考えさせる課題を提示して考えることも大切であり、特に「生命倫理」の分野では、学生間の意見交換ができるよう進めていきたい。また、事前事後学習を全くしていない学生が多く見受けられたので、自己学習を促すような課題の提示を検討したい。

科目名	2.エネルギーのしくみ
-----	-------------

担当教員	後藤 理夫
------	-------

専攻・配当年次	PT・OT	1年	回答者数	22 名
---------	-------	----	------	------

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

自然現象・人工現象のどちらにせよ身の回りで起きている事物の変化には、必ずエネルギーの出入りが有って起きていることの概念は理解してくれたと思う。具体的なエネルギーごとの数量的な計算においては、困難を極めた学生もいたが受講生全員が成果を得られたのは良かった。

◆今後に向けて

教壇に立って58年間、事故なく過ぎた。この間に私を乗り越え、成長して社会で活躍する卒業生の皆さんに感謝する。80歳になったのを機に地元の老人会に残り人生を活路としていく。

科目名

3.情報科学

担当教員

田中 雅章

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

77 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

学生の自由意見分析の結果、WordやExcelの基本操作習得など、実社会で即活用できるスキルを習得できたことに高い満足度が示され、情報科学授業の有用性が示唆された。具体的には、教科書に載っていない実践的な内容や、TAによる個別の丁寧な指導が、学生の学習意欲を高め、パソコンの知識が今後の仕事に役立つという実感を促したことが要因として考えられる。

一方で、授業の進度が速いと感じる学生や、説明不足を指摘する声も少数ながら存在し、特に授業の後半は学生のペースに合わせて進める工夫が奏功したものの、より詳細な説明や復習のためのプリント配布など、さらなる改善の余地があることが明らかになった。これらの結果から、学生の多様な学習ニーズに応え、実用的なスキル習得と深い理解の両立を目指した授業設計が求められることが示唆される。

一部の学生に授業の進みが早いと感じられた原因は、高校の在校中は新型コロナの影響でパソコン演習が不十分だったことや、学生が所有するノートパソコンの特徴を理解していなかったことなどが考えられる。

◆今後に向けて

受講生の意見を踏まえ、情報科学の理解度向上と授業満足度向上のため、基礎操作に加え実務で役立つレポート作成方法や応用機能、データ分析の初歩的な知識を導入する。受講者の興味関心に合わせたテーマを取り上げ、学習意欲を高めるとともに、前回の復習、授業中の理解度確認を遵守する。TAによるサポート体制強化、図や動画を活用した視覚的な説明、質問への丁寧な回答、授業資料の事前配布など、説明の工夫と学習環境の整備を進める。LMSを活用して、受講生が自分のペースで学習できる環境を整える。情報科学の知識を深め、実践的なスキルを習得し、今後の学習や仕事に活かせるよう、授業中にノートを取らない受講生のために補助プリントを継続しながら、より効果的な学習を支援していく。

科目名

6.心理学基礎

担当教員

松田 裕美

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

77 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

受講者80名中77名(回答率:96.25%)の集計データ、学生の自由記載の結果を以下に記載する。集計データ(授業内容、授業方法、教員の対応、学生の満足度)は、すべての項目の平均が4段階評点の3.89であり肯定的な結果であった。学生の自由記述では「講義の途中で実践的なことをした時がとても楽しかった。心理の授業を初めて受けたが、とても興味深いと感じた。授業の進行スピードがちょうど良かった。」など実践を含む講義スタイルや授業内容の興味深さについて多くの記載がみられた。一方で、学生の受講態度の「事前事後学習」については、約6割の学生が「全くなし」と回答しているため、事前事後学習課題の実施状況の確認などが必要となると考えられる。

◆今後に向けて

本科目は1年次の科目であり、これからの学習の基礎となる科目の一つである。よって、他の科目との関連づけや自分自身や他者の心の在り様の多様性について知るベースをつくるが必要となる。他の科目との関連づけについては、教員間で連携しながら進捗状況を確認することなどが必要となる。自身や他者の心情理解については、目に見えない感情や気分の変化、自身の考え方や受け取り方などについて学生自身が考える機会となるよう理論だけでなく、より生活場面に即した実践を用いながら授業を構成することが必要であると考えられる。

科目名	7.人間関係論
-----	---------

担当教員	金子 幾之輔
------	--------

専攻・配当年次	PT・OT	1年	回答者数	78 名
---------	-------	----	------	------

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

高く評価された項目は、「担当教員について」であった。この点については、(実際に技法を体験することで、自分自身で考えながら学ぶことができた)等の主体的学習姿勢が自由記載に多くみられたことから窺われ、体験学習やグループ学習などのアクティブラーニングの成果を示唆するものといえよう。

一方、低く評価された項目は、「授業方法」であった。その原因は、自由記載からみると、(PowerPointのスライドの文字数が多く理解し難い)、(授業展開の速度が一定ではない)、(説明の中で分からないことがある)といったこと等にあると考えられる。

◆今後に向けて

体験学習、グループ学習、プレゼンテーション等のアクティブラーニングの機会をできる限り多く設定し、より多くの学生が楽しみながら主体的に学習できるように配慮する。PowerPointで使用するスライドの内容を簡潔化するなどして見やすいものとする。また、受講生の理解度を十分に把握しながら授業展開していくように努める。さらに、説明の際には、主要ポイントに焦点を絞り学生が理解できるよう一層平易かつ具体的に説明するなどして改善を図る方針である。

科目名

8.倫理学

担当教員

後藤 謙治

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

18 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

「興味」、「理解」、「説明」の3項目は3.83、「進行」、「ICT」の2項目は3.89の評価であり、授業内容及び授業方法については、一定の評価を得られたものとする。また、「理解促進」及び「シラバス」では、4.0の評価であり、シラバスに記載した通りの授業の進行ができたと言える。

「知識習得」、「総合」についても、4.0に近づくよう、学生の習熟度・満足度を上げていきたい。

自由記述において、「毎回の講義が楽しかったし、毎講義新しい学びがあったし、前から知っていた知識を深めることも出来た」との回答を得られたことは、担当講師として率直に嬉しく思う。

また、アクティブラーニングの一環として取り入れたグループディスカッションやグループ発表も、アンケート上は大きな不満等はなさそうであり、比較的好意的に受け止めてもらえたものと推測される。

今後、プロフェッションとして社会に巣立っていく学生たちであるという前提で、担当講師が実際に直面した悩ましい事例等を題材にした設問で議論してもらったが、各々の将来を見据えて真剣に授業に取り組んでもらえたようであり、講師冥利に尽きる。

◆今後に向けて

グループディスカッションやグループ発表、それに向けた資料作成等、アクティブラーニングの機会を確保する取組みは継続していきたい。その上で、各テーマごとの予復習をしやすいような資料展開や、学生が興味・関心を持てるトピックも随時取り入れながら、授業内容の改善を図っていく予定である。

選択科目であることから、できるだけ学生の負担にならないように、授業内の時間及び配布資料で完結できるような講義構成を意識したが、講義時間外の学習にも取り組む意欲的な学生も多いと判明した。今後は、そうした積極的な学生にとって、更に学習を深められるような情報提供や、質問しやすいオフィスアワーづくりにも取り組んでいきたい。

ひとりでも多くの学生が、高い倫理観を備えたプロフェッションとして社会で広く活躍していくことを願ってやまない。

今後は、当年度よりも多くの学生に選択してもらえるような魅力ある講義を準備していきたい。

科目名	10.教育心理学
-----	----------

担当教員	森田 耕治
------	-------

専攻・配当年次	PT・OT	1年	回答者数	56 名
---------	-------	----	------	------

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

<講義の概要>

(1) 第1学年の2学科(作業療法・理学療法＝合計約60名)を対象とし、「ガイドライン学校教育心理学(ナカニシヤ出版)」をテキストとして、医療場面でも必要不可欠と思われる「発達・学習の基礎理論」、「適応の改善と病理」、「特別支援の理解・心理」などについて、「講義＋4人1組のグループワーク」形式の授業を実施すると同時に、前半・後半各1回のテキストの学習範囲に関する「課題レポート」(＝レポート試験＋発表)を課した。

<アンケート結果>

調査結果を見ると、学生の取組は、目標等を意識(65%)、意欲あり(58%)と、ほぼ満足のいくものであったが、その一方「事前事後学習全くなし」(50%)、1～2時間(20%)、1時間未満(20%)と不満の残るものであった。しかしながら、どの項目も評価3を超えており、シラバスと理解促進が満点値であるレベル4に近いことは、講義者としては(ほぼ)満足のいくものであった。

◆今後に向けて

<反省>

ディプロマポリシーに基づく授業到達目標の達成度を見ると、受講者の自己評価は、「どちらかといえば達成できた・達成できた」を合わせて90%と非常に高いものとなっている。しかしながら、疑問点の質問については(授業中に)授業担当者にした(48.1%)、授業担当者に質問していない(34.6%)であり、授業直後に「質問の時間を設ける」など改善の余地がある。

科目名

11.英語 I

担当教員

山森 孝彦

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

76 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データの結果として、学生全体の授業に対する回答のレーダーチャートが全方向にバランスよく広がっている点については概ね良好であるといえるだろう。

自由記載における肯定的な意見として、授業の多くの要素が学生にとって楽しく、学習意欲を高める効果があったことが確認できた。特にダジャレを取り入れた英単語暗記法や、復習を促すクラウド上のクイズレットなどの活用による自習支援は、引き続き推進していく価値があると考えます。また、学習を支える動画や綴りと発音を結びつけるフォニックスの活用も好評で、単語や発音の理解を深める上で有益であるため、今後も積極的に取り入れていきたい。

一方で、否定的な意見も真摯に受け止める必要がある。特に、グループワークやペアワークの頻度については負担と感じる声があり、外向的・内向的の幅広い性格が混在する全ての受講者に向けた、最大公約数としての授業構成のベストバランスを常に検討すべきである。また、説明の一貫性に関する指摘もあり、授業全体の質を向上させるために情報の共有と統一に努め、より良い学習環境を提供するためのさらなる改善策を検討していく所存である。

◆今後に向けて

英語1の授業では、多様な学習背景を持つ本学の1年生が、興味を持って積極的に授業に参加し、各自のレベルに応じてPTやOTとして卒業後に役立つ英語力を身につけられるよう、毎回の授業内容と展開を工夫している。今後は、学習意欲を維持・向上させるためのさらなる工夫が求められる。授業についてきているようで試験で成果を出せない学生もいる一方で、授業が易しいと感じ、もっと多くの英文に触れたいという意見もある。これを踏まえ、習熟度別のクラス分けや、AIの活用による個別対応の方法を検討し、基礎を丁寧に指導するリメディアル教育と、意欲の高い学生に向けた発展的な自学習を促す仕掛けを導入するなど、学生の多様性に対応できる教育プログラムを進めていく必要がある。

科目名

12.英語Ⅱ

担当教員

山森 孝彦

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

75 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

集計データの結果として、学生全体による授業への評価を示すレーダーチャートが全方向にバランスよく広がっていた点については、概ね良好であるといえるだろう。

自由記述における肯定的な意見としては、「小テストや動画などを工夫して、学生に伝わりやすい授業が行われていた」「ただ単語を暗記するだけでなく、英語の本質を理解することを重視した講義の進め方で、単調にならず楽しく受けることができた」「動画作成などを通して、楽しく英語を暗唱することができた」「単語テストなどで学習できた」などが挙げられた。

また、復習を促すクラウド上のQuizletの活用による自習支援は、今後も引き続き推進する価値があると考ええる。さらに、学習を支える動画や、綴りと発音を結びつけるフォニックスの活用も好評であり、単語や発音の理解を深める上で有益であることから、今後も積極的に取り入れていきたい。

◆今後に向けて

英語Ⅱの授業では、多様な学習背景を持つ本学の1年生が、興味を持って積極的に授業に参加し、各自のレベルに応じて、PTやOTとして卒業後に役立つ英語力を身につけられるよう、毎回の授業内容や展開に工夫を凝らしている。

今後は、学習意欲の維持・向上を図るための、さらなる工夫が求められる。授業についていけるように見えても試験で成果を出せない学生がいる一方で、授業が易しすぎると感じ、より多くの英文に触れたいという意見も寄せられている。

こうした状況を踏まえ、2025年度からは習熟度別のクラス編成を実施したいと考えている。基礎を丁寧に指導するリメディアル教育と、意欲の高い学生に向けた発展的な自学習を促す仕組みについて、PT・OT・英語ネイティブスピーカーの先生方とも相談しながら、より個別最適化された教育プログラムを構築していきたい。

科目名	15.レクリエーション		
担当教員	加藤 真夕美		
専攻・配当年次	PT・OT	1年	回答者数 39 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

すべての項目で平均3.72/4以上であり、バランスの良い評価であった。授業到達目標は、全員が程度の差はあれど達成できたと回答した。授業中に質問できた学生は40%以上であった。学生が自発的に学べる時間だったようである。

自由記載では、「楽しかった」との記述が非常に多かった。PT・OT合同の形態には「PTの子やあまり関わったことがない子と関わることができ、良い機会でした」、学生主導のアクティブラーニング方式の授業には「グループになりレクを考えみんなの発表がすごくためになり、みんながどうやったら楽しめるか考えるのが面白かった。考えたレクを楽しんでやってくれる姿に達成感が得られて良かった!」「生徒自身が授業の中心となっていくことが出来た」、専門職教育としての視点からは「何のためにその行動をするのか、また、患者さん視点での評価など、私たちが実際に体験しないとわからないようなことが学べる授業でとてもよかった」との肯定的な意見が挙げられた。全体的に、教員の授業構成の意図が伝わったようである。

◆今後に向けて

本授業では、くじ引きで偶然一緒になったグループメンバーと、15時間を共に活動する。他のグループメンバーに楽しんでもらうためのレクリエーションを計画し、実施し、振り返るという一連の流れを、教員の助言のもと行う、完全なアクティブラーニング形式の授業である。

PT・OT合同クラスでの開催であり、入学して間もなく開講する授業であるため、初めは緊張の面持ちだった学生も、すぐに打ち解けグループごとの色を作り出していくのが見えて心地良い。初めて作成するレクリエーション計画書は荒さが目立つが、得点と減点理由を記載して返却すると、しっかりした内容のものが再提出される。一般教養科目ではあるが、楽しみながらも、リハビリテーション専門職として押さえるべきことは押さえられるような授業構成を大切にしていきたいと思う。

科目名

16.生物と環境

担当教員

森谷 和司

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

64 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合評価は3.91で、概ね良い評価を得たと考えられる。「課題を確認し、授業に集中して取り組むことができた」など、熱心に取り組んでいる学生が多数見られたことがわかった。一方、「事前事後学習時間」の評価は低く、各講義で事前・事後学習に取り組みやすい課題や説明が必要であると感じた。

毎回の講義で、生物や標本、関連書籍などを持参し、回覧した。ネット社会の影響で、写真や映像は手軽に見ることができるようになった一方、実物を手に取る機会が減少している。実物に触れることで、その大きさや質感を肌で感じ取ることができ、新たな発見の可能性も広がる。「実物や標本に触れることができた」と記載した学生が多かったことは大変喜ばしい。集計結果に基づき、良かった点については今後も継続して実践していきたい。

◆今後に向けて

生物は環境の中で生活しており、環境は生物が生きるために必要な資源を提供する。環境が健全であることは、生物の多様性や生態系の安定にとって不可欠であり、急速に変化している地球環境に関する諸問題を理解するために、「生物と環境」の講義はその重要性を増していると考えられる。

今後も、講義に関係する生物や標本、関連書籍などを利用して、生物をより身近に感じられるような講義を行っていきたい。一方、評価が低かった「事前事後学習時間」については、毎回取り組みやすい課題を設定していきたい。

科目名

17.現代社会の理解

担当教員

蔵本 紗知

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

45 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

全ての項目で評価が3以上となり、学生から一定の評価を得られたと考えられる。特に、「シラバス」が3.92、「進行」が3.84、「理解」が3.73という結果だった。一方、「理解促進」は3.27にとどまり、他の項目と比べて改善が必要であることが示された。

学生の自由記載には、講義内でさまざまな社会問題を扱ったことについて、「現代社会で起こっている出来事を詳しく学べたことで、物事を考える大切さを改めて知ることができた」「気になるニュースばかりでとても楽しかった」といった意見が寄せられた。資料の活用に関しては、「資料がたくさん用意してあり、文字だけの説明ではわからないことも理解しやすかった」とのコメントがあった。さらに、コメントシートを使ったフィードバックについては、「コメントシートの振り返りを授業開始時に行うことで、他の受講生の意見を知ることができる点良かった」と評価された。

新聞記事の活用やコメントシートを通じたフィードバックにより、本講義の目的である、現代社会への理解の向上が、ある程度達成されたと考えられる。

◆今後に向けて

「シラバス」「進行」「理解」については、学生から一定の評価を得られたため、今後も継続して取り組んでいきたい。特に、新聞記事などの資料をさらに充実させることで、社会問題をより身近に感じられる講義を目指したい。また、学生から評価されたコメントシートのフィードバックでは、多様な見方や意見を取り上げ、多角的な視点を育てることに一層努めたい。

他の項目と比べて改善が必要な「理解促進」については、課題やグループワークの実施を通じて対応したい。これまで講義内では、学生の理解を深めるためにコメントシートの記述を求めてきたが、今後は学生がより主体的に学べる形式を取り入れ、さらなる理解促進を図りたいと考えている。

これらの取り組みを通じて、学生が講義の到達目標である「身近な社会問題への理解・思考・興味・関心」を深められるよう、講義内容を一層改善していきたい。

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目では、法が、私たちの生活、特に社会人となった後の生活に密接に関わるものであることを理解、実感してもらうことを目標として、教科書の内容の解説と並行して、ニュース等で話題になっている事件(刑事、労働関係、選挙をはじめとする行政関係事件)や講師が関わっている案件(障がい者差別法に関する法改正、政策形成への諮問)など、なるべく多様な具体的事例を挙げるよう心がけた。

授業評価アンケートからは、学生が、上記の事例紹介を足がかりとして、興味をもって授業に取り組んだこと、授業内容の理解には一定の課題があるものの、全体として知識促進に役立てたことが窺われ、講師の目標も相当程度、実現できたものと考ええる。

学生にとって、法律が難解で縁遠いことは否めず、どうしたら興味を持ってくれるか、理解してもらうためにどれだけ分かりやすい説明ができるのかということに苦心した。学生が概ね興味関心を持って受講してくれたことが分かり、講師としても嬉しい回答であった。

◆今後に向けて

本科目では、引き続き裁判実例を通じて、学生に個人の権利自由の重要性、個人の尊厳の重要性の理解を深めてもらえることを目標としていきたい。そこで、今後とも、最新のニュースとなっている事件の紹介や、講師が関わっている案件のアップデートに努める予定である。

また、授業評価アンケートからは、学生が授業内容を十分に理解できなかった可能性が窺われ、授業の進め方として理解促進に資する工夫をすることが課題となると考える。今後は、教科書の内容の解説にも時間をさき、授業で取り上げる事件、案件との関連性が明確になるようにしたい。

課題書は、法学入門として満遍なく触れていることもあり、必ずしも学生の興味関心に沿っているわけではない。最低限の法律の説明や医療関連の法律知識は当然残すとして、学生が直面する恐れの高い消費者被害やSNSを巡るトラブル、著作権侵害などについて、1コマずつ割り当ててもいいのかもしれない。学生が法律に関心を持ってもらうのは良いが、他の授業との兼ね合いも踏まえて、あまり負担をかけすぎないようにしたい。

さらに、本科目は、複数人が講義を担当している関係上、授業終了後に疑問がでてきても、次回授業で質疑応答できない事態も生じうるため、対策を講じる予定である。

科目名

21.社会福祉学

担当教員

伊藤 正明

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

77 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

2024年度は前期月曜午前1～2コマ、PT・OT合同クラスでの開講となった。集計データの総合評価は4段階で3.77である。質問項目に対する学生の評価としておおむね良好だったといえる。シラバス意識に関する評価が3.95と高いのは、最後の授業でも科目の目標や達成度に関して確認する時間を設けたことによるものと考えている。

PT・OT学生が混ざるようグループを編成し、必ず授業開始時にアイスブレイク要素のあるワークと授業中にペアまたはグループワークを行っている。「専攻を超えた繋がりを作ることができた」という記述からもその効果が確認でき、その後の学生生活にもつながるネットワークになると考える。

科目の特性上、適宜映像で生活課題をかかえる当事者の声等を視聴することで「リアルな現場を感じることができた」という記述の通り、話すだけでは伝えきれない点を補うことができた。

◆今後に向けて

講義日程の前半・中盤・後半に科目の全体と部分、目標と達成方法を問いかけ確認していく、受講生と相互に学習状況を把握していく。また小テストまたはレポート課題を1回増やし、学生がアウトプットと省察ができる機会を設けたいと考えている。これを可能であればグループ毎にピアスーパービジョンの形式で実施することで、勉強の方法やコツ、レポートの書き方理解について相補できるつながりをつくってもらいたい。

映像教材・漫画の活用、PT・OT混成によるグループワークについては継続し社会福祉学を身近なものにしていこうと考えている。社会福祉に関する映像は最新のものを吟味し、視聴した学生の自己覚知と専門職としての価値観について確立していくきっかけとなるような設問をともに考えていけるよう、工夫をしていきたい。

科目名	22.スタートアップセミナー		
担当教員	山田 和政、林 尊弘、加藤 真弓、松村 仁実、宮津 真寿美、 臼井 晴信、木村 菜穂子、齊藤 誠、山田 南欧美、濱田 光佑、 藤本 大介、岩井 和子、廣渡 洋史、横山 剛、渡邊 豊明、 加藤 真夕美、清水 一輝、外倉 由之		
専攻・配当年次	PT・OT	1年	回答者数 81 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容、授業の方法、理解を深めるための工夫、学習目標などの説明の項目において、最高で3.51、最低でも3.1であり、また80%程度の学生において肯定的な評価であった。受講態度に関して学生自身の自己評価は、意欲が3.21、目標を意識した取組みは3.28であり、80%程度の学生において肯定的に自己評価していた。ディプロマポリシーに基づく授業到達目標の達成度についても80%程度が肯定的に評価していた。自由記載では全回答者のうち約40%が記入しており、グループワークで他者と交流ができたこと、各専攻教員との関わりが持てたこと、医療職として大切なことの理解、大学の理解といった授業の形態や内容について良かったという意見やスライドや説明に関して肯定的な意見が多かった。

◆今後に向けて

大学の理解(自学教育)、自己理解・他者理解を含めたグループワーク、医療従事者・社会人としてのスキルに関する説明やセルフチェックについて継続して行いたいと考える。改善が必要な点としては、PTOTに求められる知識・技術のレベルを具体的に提示できるようにしたい。また、医療者になる動機付けの工夫を検討したい。なぜなら、高校までの学習から抜け出せていない者が一定数いることや学習時間の確保が十分とは言えないためである。

本科目は、初年次教育に位置づけられており、他科目との連携が重要となるので、科目間連携の強化もしていきたいと考える。

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容(理解)、授業方法、教員、授業満足度、総合評価については、いずれも3.7/4.0段階と比較的高い評点であり、概ね良好な授業評価結果であったと解釈する。自由記載においても、「グループワークが多くてよかった」や「パワーポイントの資料が見やすかった」、「論文は難しかったが、いい経験になった」などの意見が多く見られ、講義中に実施した課題が適切だったことが伺える。一方で、授業内容(興味)については、3.48/4.0段階と少し低い評点であり、入学して間もない学生が興味を持つような内容に変更することも検討する必要がある。

事前・事後学習については、50%程度が「全くなし」と回答しており、事後学習を促進する課題設定などが必要である。

◆今後に向けて

授業評価アンケートの結果を踏まえ、授業の内容(難易度を含む)や方法などについては、大きく変更する必要はないと考える。特に、グループワークやパワーポイントの視覚資料についての肯定的な意見が多く、これらの手法は今後も継続して活用することが望ましいと考える。論文を用いた課題が学生にとって有意義であったという声もあり、高度な内容に触れる機会を提供することの意義を改めて認識した。

一方、授業内容に対する興味の側面では評価がやや低かった点は改善が必要である。新入生がより興味を持ちやすいトピックや事例の導入を検討し、学生の関心を引きつける工夫を施すことが求められる。具体的には、より実践的な事例研究や、学生の身近な問題をテーマにすることにより、内容を親しみやすくすることが考えられる。

また、事前・事後学習があまり行われていない現状に対しては、明確な学習目標を設定し、学生が自主的に学習に取り組むきっかけを作ることが必要である。次回の授業に関連する簡単な課題を出したり、授業の最後に振り返りシートを記入させたりすることで、学生の学習意欲を高め、授業の質をさらに向上させていくことを目指す。

科目名

24.医療職教養演習（OT）

担当教員

横山 剛

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

29 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

レーダーチャートなどを見る限り、学生の好評を得た授業であったと思われる。自身が考え、思っていることがすべてではないことを実感として体得できるようにと考え、また丸暗記の学習ではなく、教員が伝えているその内容に加えて、その教員が何を大切に何と伝えようとしているのかを受け取れるように、講義計画をして実施してきた。この辺りについては自由記載で「視野が広がった」や「様々な観点から考える」というような記載から成果として残せたのだと思われる。しかしながら、普段の生活の中でもこのように受け止めて、考え、行動できるようになることが本来の目的であるため、まだ入口に過ぎないのだと受け取っている。この授業のみならず学生も教職員もこういった視点でかわり続けていく必要があるであろう。

◆今後に向けて

授業の回数としてはあまり多くはないため、たくさんのことを詰め込む授業ではなく、他者と信頼関係を築いていくためには、自身について知る必要と自分ではない他人を知る必要があること、加えて自身にも理解できないことがあること、そして他者の支援をしていく人となるためには自身が支援を受けなければならないことなどを学生が体験して受け入れられるような支援を継続していく。

科目名	25.解剖学 I		
担当教員	中野 隆		
専攻・配当年次	PT・OT	1年	回答者数 77 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

解剖学は、用語の単純丸暗記ではない。形態的意義や機能的意義を理解することによって、応用力や問題解決能力を学生自らが育む努力が必須である。授業評価アンケート結果からは、課題(練習問題、MISSION)によって理解を深めている学生の学習姿勢が評価される。また、大学は「幅広い知識を学ぶ場」でもある。医学用語の由来や系統発生的な内容に興味を示す学生が増えつつあると推察される。

◆今後に向けて

「文字が見えない」、「声が聞こえづらい」、「後方の席からは模型が見えにくい」等の指摘について

改善に努める。ただし、毎回の講義時に複数回、「見えない(読めない)、聞こえない場合は挙手するように」、「後方の席から見えない場合は起立しても良い」、さらに「講義後に非常勤講師控室に質問に来るように」指示している。非常勤講師任せではなく、学生自身が行動することが必要である。「模型が見えにくい」については、現行の講義形態(PT/OT合同の講義を、階段式ではなく平床式の大講義室で行う)ことによる制約はある。講義後に直ぐに質問されれば、模型を用いて対応できる。また、「解剖実習」という科目の自習時間に「トルソ模型や脳模型も学生に供覧する」ことを学科長および科目担当教員に提案している。換言すれば、非常勤講師の立場では変更や改善が困難な事項もある。授業評価アンケートだけではなく、大学側に直接要望してほしい。

「大学は幅広い知識を学ぶ場である」ことについて

講義中に関連する学術論文等を紹介し、希望者には配布することを伝えている。学術的興

科目名	26.解剖学Ⅱ
-----	---------

担当教員	中野 隆
------	------

専攻・配当年次	PT・OT	1年	回答者数	75 名
---------	-------	----	------	------

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

解剖Ⅱは、循環器系、内臓系、感覚器系という幅広い系統が含まれるが、各系統は相互に関連している。さらに、系統解剖のみでなく局所解剖の観点から、各臓器に分布する脈管および神経を理解するには、前期開講の解剖Ⅰ（神経系）の知識も必須である。学生各自が毎回の講義内容について復習すると同時に、講義後の質問時間を活用する、すなわち自ら学ぶ姿勢が必要である。

◆今後に向けて

医学は境界領域の学問であり、卒後の臨床の現場においても幅広い知識と技術が要求される。したがって学生時代から、専門領域に限定されない幅広い見識を学ぶ姿勢が必須である。本アンケートの自由記載欄および振り返りシートの記載から、さまざまな領域に興味を示す学生が増加してきたことが伺える。解剖学の範疇に留まらず、臨床医学や医学史などに関連付けた教育内容を充実させる。

科目名

27.解剖学実習

担当教員

木村 菜穂子、清島 大資

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

74 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

アンケートの集計結果より、「授業内容」「授業方法」「満足度」「総合」ともに3.5点以上(4点満点)であり、大きな問題はなかったと判断できる。また、アンケートに回答したほとんどの学生が「目的意識を持ち」「意欲的に」授業に参加していたとのことで、大変嬉しく思う。

反面、事前・事後学習については約20%の学生が「全くなし」と回答しており、授業時間内に課題が完了していた場合も考えられるものの、課題以外にも練習問題等を配布していたことを考えると、取り組みが十分ではない学生が一定数いた可能性もある。

さらに、自由記載(少数回答であったが)では多くがグループ学習の利点や教員に質問しやすい環境であった等のコメントであったが、「課題の回答を示してほしい」「授業開始時に少し内容説明があれば、より理解しやすかったのではないか」といった意見もあった。

◆今後に向けて

アンケートの自由記載が少なかったことで不明な点も多いが、本科目は実習科目であることから、講義ではなく自己＋グループ学習を中心に進めた点は多くの学生に受け入れていただけたと考え、今後も継続していくつもりである。ただし、グループ編成(人数)等は、グループ学習しやすい人数を検討したいと思う(今年は1グループの人数が多かったのではないかと感じている)。

改善点として、授業形態上小テスト等の実施は難しいが、試験より前に学生の理解度を測り、疑問点を抽出するために、質問票などを利用することで、「なんとなく分からない」という学習のつまづきに早期対応していきたい。さらに、時間や学習進度、必要度に応じ、ミニレクチャー等を実施する等、学生の学習が進む工夫を、さらに行っていきたいと考える。

科目名

28.生理学 I

担当教員

長谷川 昇

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

79 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

- ・授業内容(平均3.1)、授業方法(平均3.0)、学生の満足度(3.0)はおおむね良好な結果であった。
- ・すべての項目中、最大(3.5)は、興味についての項目であった。さらに興味を深められるように、今後も継続して工夫していく。最小を示した項目(2.7)は、理解の項目であった。さらにわかりやすいよう工夫を行う。
- ・自由記載の中で、「わかりやすかった」、「興味深かった」、「薬につながる講義内容は興味が持てた」などの+の要因が多く記載されていたことから、前項目の結果とはやや矛盾が生じているが、授業の理解度はおおむね良好と考えられる。
- ・全体の流れを初回に提示したこと、質問しやすい雰囲気、中間テストの実施など、授業の進め方については、おおむね良好であったと考えられる。
- ・「授業がわかりやすく的確にまとめられていた」、「図を使って、要点を絞った説明がわかりやすかった」などの感想を持つ学生がいたことは、授業レベルが学生のニーズに合致していたと考えられる。今後、この授業が引き金になり、関連分野の学習が進むことを期待している。

◆今後に向けて

- ・授業を聞きながら、自分に必要なことを瞬時に取捨選択して素早くメモができる能力が身につくことを目標とし、その結果、さらに関心を持って、予習・復習の時間や質問が増えるような授業の組み立てをする。
- ・単に知識を身につけるだけでなく、現場で知識を組み合わせる薬物治療の方針を考えられるよう、さらに、考え方の幅や興味が広がるような授業の組み立てをする。
- ・解剖学などの関連科目や薬の作用点と結びつけ、さらに理解が深まるよう工夫する。

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

- ・授業内容(平均3.7)、授業方法(平均3.6)、学生の満足度(3.6)は概ね良好な結果であった。
- ・すべての項目中、最大(3.8)は、興味についての項目であった。さらに興味を深められるように、今後も継続して工夫していく。最小を示した項目(3.6)は、理解促進の項目であった。いずれも高得点であり、さらにわかりやすい工夫を行う。
- ・自由記述の中で、「復習がよかった」、「教科書以外の資料がよかった」、「テスト前の復習が効果的だった」などが記載されていたことから、授業の狙いは概ね達成されたと考えられる。
- ・全体の流れを初回に提示したこと、質問しやすい雰囲気、中間テストの実施など、授業の進め方については、概ね良好であったと考えられる。
- ・「授業がわかりやすかった」などの感想を持つ学生に対し、「難しかった」と回答する学生がいたことは、授業レベルは概ね学生のニーズに合致していたと考えられるが、中には理解度の低い学生も混在していることが明らかである。今後、この授業が引き金になり、関連分野の学習が進むことを期待している。

◆今後に向けて

- ・授業を聞きながら、自分に必要なことを瞬時に取捨選択して素早くメモできる能力が身につくことを目標とし、その結果、さらに関心が持て、予習・復習の時間や質問が増えるような授業の組み立てをする。
- ・単に知識を身につけるだけでなく、生理学の知識を総合して、現場で、患者の状態の推測、薬物治療の方針を考えられるよう、さらに、考え方の幅や興味が広がるような授業の組み立てをする。
- ・解剖学などの関連科目や薬の作用点と結びつけ、さらに理解が深まるよう工夫する。
- ・講義の進行スピードを抑え、少しでも多くの学生の理解度を上げるような組み立てをする。
- ・講義で不十分だった内容については、生理学実習を通して、再度理解が深まるよう工夫をする。

科目名	31.運動学総論
-----	----------

担当教員	齊藤 誠
------	------

専攻・配当年次	PT・OT	1年	回答者数	71 名
---------	-------	----	------	------

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

この講義は、講義日の1週間前までにGoogle Classroomに講義資料を配信し、受講者は事前に学習する形式である。講義時間には小テストを行い、学習の理解度を確認するなどの工夫をした。何度も繰り返し視聴できることをメリットであると感じている学生が複数いた。専門知識に乏しい初年次であることから、本講義形式は有用であると考ええる。

◆今後に向けて

全体的な評価および授業評価コメントなどから、講義形式は継続していくことが望ましいと考える。

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

リハビリテーション遂行に際し、出生前や新生児期、乳幼児期の障害がその後の発達へ大きく影響する場合も少なくない。そこで、人間発達学ではこの時期の発達状況の基礎的な捉え方を時間を割いて行った。具体的には、生理学的発達と精神・心理学的発達を二本柱とし、それぞれの発達段階にみられる代表的な疾患を提示し、発達過程と疾病成立との関連性を理解しやすいよう工夫した。更に、より広い視点からアプローチできるよう、それぞれの段階における成育ポイントを、多数のイラストや写真、図、データなどを活用し、プリント作成して講義した。

大学四年制度が始まり、入学生の質にどう反映されるのか注視していたが、幸い授業に対して集中し聴講する姿が多く、講義もスムーズに進行した。テスト成績にもそれが伺え、PT、OT共にかなりの良好な結果を得た。また、学生アンケートの印象は概ね好意的であり、「プリントは見やすかった」「理解が深まった」などの意見があった。一方で、スライド講義の希望もあったが、スライドは基本的に“まとめ”として記述するため要約的になることも多く、その点プリントでは初めて聴く事柄でも細かな意味合いや相互の関連性など理解し易く、医療教育に不可欠なより理論的な思考法に繋がると考え配慮してきた。

◆今後に向けて

今年が最後の講義となったが、例年の如く授業が単調に流れないよう、適宜ボードへの書き込みなども行いながら講義を進めた。毎年「字が読みづらい」との指摘があり、なるべく丁寧に書いたつもりであるが、時間の関係上書字が流れたかもしれない。

講義中もより積極的な会話や討論の機会が持てるよう、人間発達学の前提としての常識的な範囲内で色々訊ねたが、高校卒業したての学生にとっては普段余り意識していない事柄だったのか、発言は少なく期待した程に成果は上げられなかった。ただ、これが高学年になると違った反応になると確信している。というのも、学生は素直で医療への関心度は高く、立派な意見を持つものも多く、素質は高い。我々はその優れた能力を真摯に受け止め、将来を見据えて最大限に開花するよう応えて行かなければならない。

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

◆集計データ結果について:将来の専門職への役立ち方が見えにくい中で、病理学の面白さ、論理的思考の面白さの解説に重きを置いて講義を組み立てた。しかしながら、臨床医学への誘導が十分でなかったか講義内容毎の重要度の不均衡が、学生からの反応の基礎にあるのであろう。学生の学習目標である、ディプロマポリシーの獲得に向けた学生の準備状態と学習の進捗を知るために、過去の標準的な問題を用いた小試験を試みた結果、この科目を理解しようとする動機づけと講義内容のマッチングが必ずしも良好でないと言える。

◆学生の自由記載の内容に関して:教科書の進行を大筋に、特に大切な項目について詳細な事項をレジュメに示し、細かな解説を行ったことを歓迎する意見と、それにより分かりにくくなったという意見があった。これはレジュメの書式をスライドの形式に合わせたことによるところが大きいと思われる。解説が臨床方向に細かくなりすぎたためか、学生の学習の進捗に比べて「分かりにくい」との意見が多くなったことは残念である。また、興味を呼び起こすため細かく解説した結果として、講義時間を超えることを不都合だと感じる場面が多いことが知られた。

◆今後に向けて

次年度から内容の簡素化、講義項目の絞り込みの一方で重点的なポイントを強調することは継続して、病態を解析的に見ることの重要性をさらに分かりやすく講義する。より臨床的な具体的な疾患に関する講義項目を減らし、その病態を理解するのに必要な項目に絞り込む。レジュメの様式を変更し、より分かりやすい形式に改め、学生の理解度を検定する機会もさらに増やして全く新しい講義形式に変更する。聞こえにくさについては、使用するマイクを変更して改善する。

科目名

45.リハビリテーション医学

担当教員

種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

72 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

臨床科目である内科、整形外科、神経学などを全く学んでおらず、医学用語も知らない時期で臨床実習に行っても困らない程度のリハビリテーション医学の知識を与える講義は初めてなので工夫がいった。まず教科書は使わず、講義内容をまとめた講義ノートをクラスルームの講義資料として前日に送り、講義はスライドを用いてなるべく画像を多くして理解しやすいようにした。講義の最後に国試問題を供覧した。講義後は復習の助けになるようにスライドを資料として送付した。このため理解がしやすかった様で、特にスライドに動画を入れたことが良かった様である。また国試問題の提示もモチベーションを高めた様である。これらのためか試験で80点以上を取った人が続出した。

◆今後に向けて

臨床未経験の段階でのリハビリテーション医学の講義としては間違っていないかったと思われるが、実習に行った時点での医学用語がどの程度理解できたかが不明である。正しい医学用語の習得にもう少し時間をかける必要がある。

科目名

46.医療安全学

担当教員

横尾 和久、種田 陽一

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

72 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

医療安全は多岐にわたり全般を網羅する教科書がないため教科書は使わず、講義内容をまとめた講義ノートを前日にクラスルームを通じて資料として送り、講義はスライドを用いて行い、講義の最後には国試問題を供覧した。講義後は復習をやりやすくするためにスライドをpdfに変換して各自に資料として送った。スライドは理解しやすい様になるべく動画を多く取り入れた。講義ノートをプリントアウトして講義に臨んだ学生はより理解が深まった様である。そのためか試験では80点以上が続出し、90点以上を獲得した学生も10人を超えた。

◆今後に向けて

スライドの進行が速いとの指摘があり、枚数を減らして少しゆっくり進行した方がより理解が高まるのかも知れない。

科目名

49.リハビリテーション概論

担当教員

山田 和政

専攻・配当年次

PT・OT 1年

回答者数

80 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業内容、授業方法、授業担当教員、授業満足度、総合評価については、いずれも3.5前後/4段階の評点であり、概ね良好な授業評価結果であったと解釈する。授業におけるグループワークでの演習、毎回のオリジナル資料の配布やパワーポイントの活用は、分かりやすく授業内容の理解に役立っているとの意見が複数聞かれ、授業の速度や授業の難易度においても適当と思われる。一方、少数ではあるが、いずれの設問に対しても1または2の評点を付けた者も見受けられ、その要因について分析する必要がある。また、授業中にマイクを使用しなかったことで、声が聞き取りにくかったとの意見があり、改善すべき点として挙げられた。

受講態度についてほとんどの学生が授業に対し意欲をもって取り組んでいたと回答していたが、学習態度における事前事後学習時間は、1時間未満の者が8割ほどを占めており、授業毎の内容を十分に身に着けていたのか疑問が残る。

◆今後に向けて

授業評価アンケートの結果を踏まえ、授業の内容(難易度を含む)や方法などについては、大きく変更する必要はないと考える。但し、次の3点については、変更・改善を図っていく。①事前事後学習については、毎回、予習課題や復習問題などを作成し、学生の学習への取り組みを促すとともに、学習習慣を身に着けさせていく。②授業時のマイクについては、学生の要望に応え使用する。③定期試験結果を見ると、想定していた成績からはかけ離れて低く、きちんと知識が定着していないことが明らかとなった。そのため、ひとつとしてさらに授業が分かりやすいものとなるよう、グループワークを増やし、ディスカッションの機会を設ける。もうひとつは、大学の授業時間が90分と高校時と比べて長く、本科目は1年前期開講科目であることから、授業に対する意欲はあるものの、集中力が持続できないことが考えられる。授業を「45分×2テーマ」で構成し、進めていくことも検討したい。

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

授業は、教科書の内容を中心に説明した。また前期開講科目である解剖学・生理学・リハビリテーション概論の授業範囲の知識の確認と理学療法との関連を意識し、授業を展開した。教科書の中でも重要な点については、Power Pointを用いて説明した。Power Point資料は配布をせず、説明した内容については教科書に下線を引いたり、メモをとるよう促した。授業時の様子から、今回は全講義終了後にPower Point資料をGoogle Classroomを利用し配信した。講義が中心であったが、グループワークと発表、確認テストを実施した。

各質問項目の平均点が3.60以上であったことや自由記述内容から、概ね良好な結果であったと考える。8割以上の学生が授業目標を意識(どちらかというと意識を含む)し、意欲的に取り組み、DPに基づく目標の達成感も感じている。しかし、事前事後学習については、5割弱の学生が全くしていないと回答していることや、本試験結果を考えると、知識の定着が十分ではない者が一定数いることについては課題であると考ええる。

◆今後に向けて

多くの学生は、授業に対する意欲や目標を意識して積極的に取り組んでいるものの、学習時間とその結果については必ずしも十分とは言えなかった。その要因の一つとして、テスト対策として正解を覚える学習に偏っていること、言葉の暗記にとどまっていることが考えられる。今後は、単に覚えるだけでなく、理解した上で説明できることを目指すよう指導していく必要がある。また、知識の定着を促すため、予習または復習の習慣化を図りたい。具体的な例として、実施内容を提出させるなどの仕組みを検討していく予定である。

基本的な授業方法・内容については、今回の授業評価結果を踏まえ、本科目開講1年目という点も考慮し、次年度は大幅な変更はせずに実施していく。

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

多くの項目で3点台後半のポイントという結果であり、高い結果であった。その中で、「理解」、「進行」の項目は少し低めのポイントであり、学生が課題と感じていた。自由記載では、必要な知識を学べたことや分かりやすかった点を挙げる意見がみられたが、内容量と授業時間のミスマッチを指摘する意見もあり、その点で「進行」のポイントが下がったと考える。それに伴い十分な「理解」に至らなかった部分があったことにつながっていると思われる。

ほとんどの学生が「意欲的」にあるいは「どちらかと言えば意欲的」に取り組んでいた。自由記載からも、学んできた解剖の知識を活かせることや理学療法士として必要な技術であることが理解できていることがうかがえる。また、多くの学生が事前事後学習に取り組んでいた結果からも読み取れる。

◆今後に向けて

授業での説明や一つ一つの進むスピードは適切であったが、授業全体を通すと消化不良な部分があった。実習授業としては初めて人の体に触れることもあり、患者の立場にたつ視点も含めて丁寧に進めることは今後も継続していく。

授業時間に対して内容が多く設定されている可能性がある。理学療法士を目指す学生には全身に対しての知識や技術も必要となるが、まずは今後の科目とのつながりが強い部分について他科目との連携を図りながら内容を絞ることを検討する。対象とする筋や骨指標の数、触察する範囲を全体とするか一部とするかなども検討し、学生が確実に身に付けることができるような授業展開につなげていきたい。

科目名

85.臨床実習 I（見学）

担当教員

山田 和政、林 尊弘、加藤 真弓、松村 仁実、宮津 真寿美、
臼井 晴信、木村 菜穂子、齊藤 誠、山田 南欧美、濱田 光佑、
藤本 大介

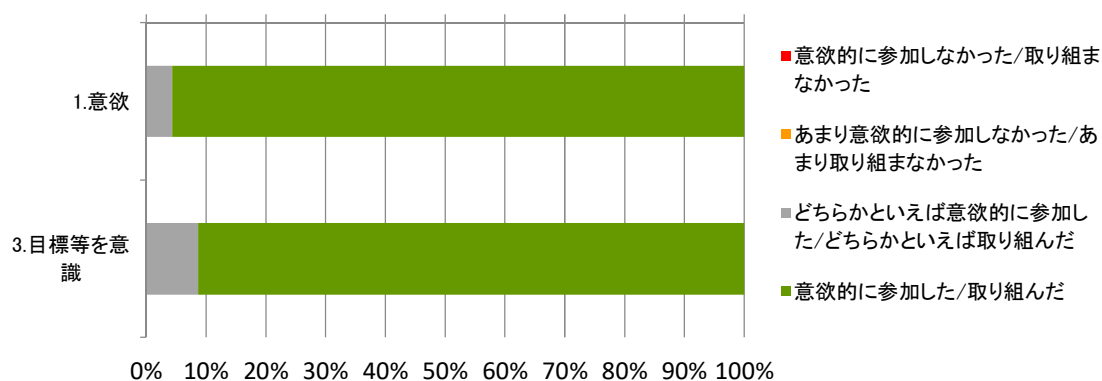
専攻・配当年次

PT 1年

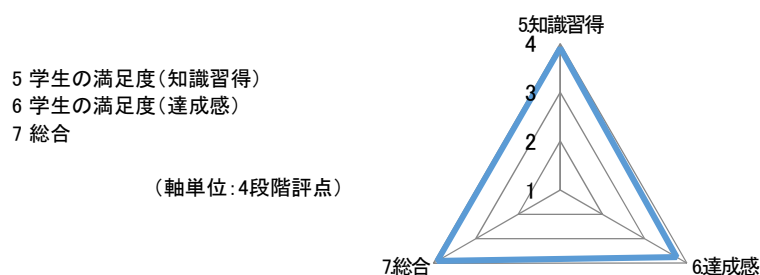
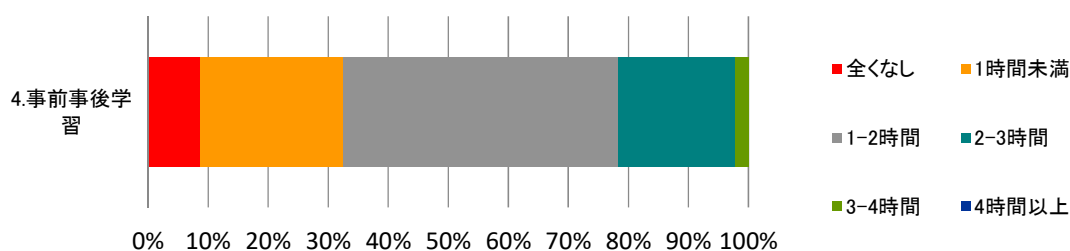
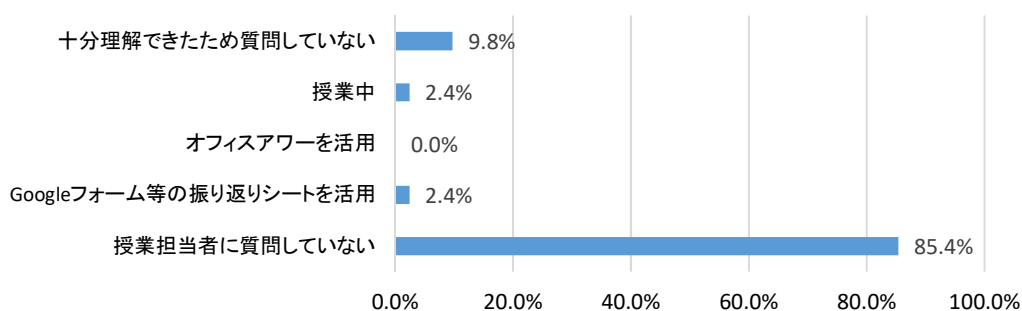
回答者数

46 名

◆集計データ結果について



2.質問



科目名

90.臨床セミナー

担当教員

松村 仁実、木村 菜穂子、齊藤 誠

専攻・配当年次

PT

1年

回答者数

45 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

本講義は臨床で患者さんと接する最初のも機会であり、ほとんどの学生が初めて経験するであろう医療施設での実習における態度や心構えを理解し、身に着けることを目的の一つとしている。自由記述として実習に必要なことを簡潔に教えてくれたと評価しているコメントがあり、初めて実習を経験する者にとってもわかりやすい内容であったと推察される。

◆今後に向けて

医療施設において効果的な学びを得る前提として、良好な態度で実習に臨む必要がある。前述の通り、必要な事項をわかりやすく伝達できていたと推察されるため、次年度以降も明確、丁寧な説明を心掛けたい。

科目名	93.作業療法概論
-----	-----------

担当教員	岩井 和子
------	-------

専攻・配当年次	OT	1年	回答者数	28 名
---------	----	----	------	------

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

「興味」「知識習得」「進行」「シラバス」については、3.7以上であり、当該科目における学修の目的は概ね達成されたと考える。

「総合満足度」で、3.68とやや下がっているが、この点は「説明」において3.61との評価であるためと思われる。

「声が聞き取りづらい」とのコメントがあるが、この点は、授業開始当初、学生自身も大学の講義形式に不慣れなため、雑談が多かったことがあると思われる。しかし、後半になるに従い、授業態度は改善された。

◆今後に向けて

資料等については「わかりやすかった」とのコメントもあるが、さらにブラッシュアップして学生が自己学習がし易いものとする。

本科目は、1年前期の科目であり、学生が大学での講義に不慣れであることも鑑みて、1回の講義での情報量を徐々に増やしていく授業計画とする。

重要なポイントをさらにわかりやすい形で強調し、本科目で学生が習得すべき知識の理解を十分なものとする。

科目名	95.基礎作業学
-----	----------

担当教員	岩井 和子
------	-------

専攻・配当年次	OT	1年	回答者数	28 名
---------	----	----	------	------

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

全8回の講義であり、教員としては当該科目の概略しか伝えきれていない感があるが、演習等を充分入れたことで、学生の「総合満足度」は、「3.71」であった。

教員自身が概略を伝えた感があるという点が「説明」における3.46という評価に現れていると思われる。

学生は演習に興味をもって取り組んでいたが、演習の意義についての理解は今一つ不十分であったかと思われる。

◆今後に向けて

8回という限られた授業回数であることを踏まえ、資料のブラッシュアップ、重要ポイントの十分な情報伝達を意識した授業計画とする。

演習についても、学生はそれなりに興味を持つので、さらに演習がどのような意義をもつのか、今後の作業療法の学習にどうつながっていくのかを十分に伝えて実施する。

科目名	96.基礎作業学実習
-----	------------

担当教員	横山 剛、松田 裕美
------	------------

専攻・配当年次	OT	1年	回答者数	30 名
---------	----	----	------	------

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

担当者が急遽不在となる中で、私(横山)が2024年度の基礎作業学実習すべての時間の担当となり、当初の計画通りとはならず、申し訳なく思う。およそ90%の履修学生からの回答があり感謝している。レーダーチャートでは3点台後半の数値で、総合が3.77点と、まずは責任を果たすことができた。自由記載では、馴染みのない活動を行い良い経験となった、これらの活動を通して患者様の気持ちを想像することができた点が良かった、といったものが記載されていた。他者の気持ちを想像するといったことは、これからもとても必要となるので、大切にしていきたいと願っている。

◆今後に向けて

この授業では、作業療法の治療構造についても触れて、難しいことも多かったと思うが、受講生と一緒に考えてきた。作業療法が治療として成立するために、必要なことをこれからも授業だけでなく一緒に考えていきたいと思っている。

科目名

115.日常生活作業学 I

担当教員

石井 文康、外倉 由之

専攻・配当年次

OT

1年

回答者数

31 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

総合3.97であり、概ね良い評価であったと思われる。目的などを意識し、熱心に取り組んでいる学生が多数みられたことは良かった。また、DPに基づく授業到達目標の達成度においても、多数の学生が達成できていたため、良かった点については、今後も継続して実践していきたい。

学生の自由記載からは、教科書だけでなく、動画・補足的なプリントや実際の現場で使用している自助具を紹介し、体験することで学生が興味を持つことにつながったと思われる。また、グループワークもあり、理解しやすかったというコメントからは、参加型学習を導入することで、内容の理解につながったと思われる。

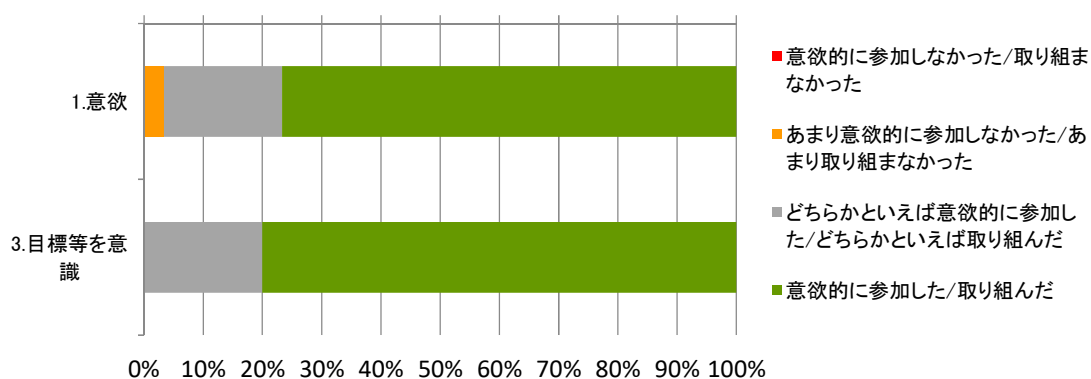
本科目は作業療法士にとって重要な概念である日常生活活動の基礎を作業療法の視点から理解することを目的としており、今年度も学生の理解を深めるため随時演習を用いたことが自由記載に反映されていたため、今後も演習を活用していきたい。

◆今後に向けて

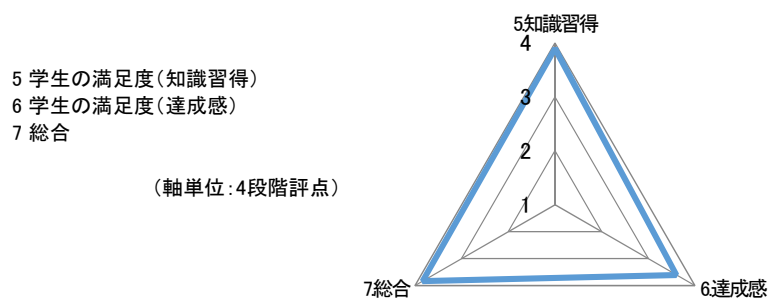
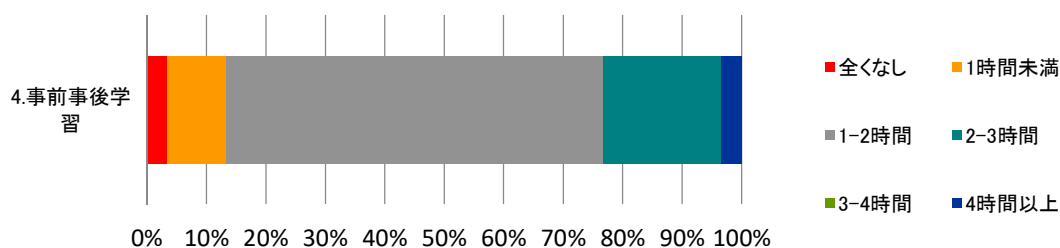
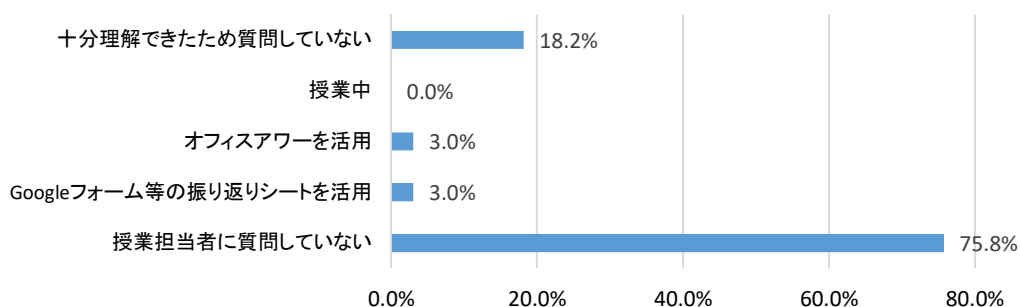
今後も、学生が主体的に参加し、自ら能動的に考えられるような講義を継続していきたい。そのため、教科書の理解を深めるための視聴覚教材・配布プリントの内容を見直していく。しかし、事前・事後学習の少なさがアンケート結果で明らかとなったため、各授業で事前・事後学習のしやすい機会を提供できる環境を設けていく必要性を感じた。

科目名	126.臨床実習Ⅰ（見学）		
担当教員	岩井 和子、加賀谷 繁、廣渡 洋史、横山 剛、渡邊 豊明、 加藤 真夕美、清水 一輝、外倉 由之、松田 裕美		
専攻・配当年次	OT 1年	回答者数	30 名

◆集計データ結果について



2.質問



科目名

131.臨床セミナー

担当教員

加藤 真夕美、清水 一輝、外倉 由之

専攻・配当年次

OT 1年

回答者数

21 名

◆集計データ、学生の自由記載の内容を検討した結果

本科目は実習に向けた事前準備に関わる科目であり、自由記載の結果からも一定の成果があったと考えられる。また、自由記載にはないが、病院見学では様々な学びがあったことも推察される。その中で、「理解促進」の項目が他の項目と比較して低値であったのは、学外実習に向けた心得や注意点などを講義形式で教授する講義となっていたためだと思われる。

◆今後に向けて

今年度と同様の内容を継続して実施するが、病院見学と臨床実習のスケジュールをもとに、学生の理解に合わせて指導内容を検討していきたい。また、学生の理解を促進するための工夫(グループワークなど)の導入も検討したい。